

ボランティア情報 特集

地域のつながりを活かした「場づくり」

社会のなかの様々な場面におけるボランティア活動を通して、人はこれまで知らなかった人や団体、未知のものと出会う。それは、活動者が人や団体とかわるごとの楽しさ、未知のものへの新たな気づき・学びに出会うことができる、ボランティアならではの魅力といえる。

現在、ボランティア活動や市民活動が扱う課題は多様化している。そのため、自分ひとりや一団体だけで活動を実践するのではなく、他人や他団体と一緒に活動を行っていく場や機会をつくりだすことが重要になってくる。

本特集では、出会った人や団体とのつながりを活かした場や機会をつくっている事例を紹介しつつ、場づくりをきっかけに人や団体とつながることの重要性について一緒に考えていきたい。



社会福祉法人 志布志市社会福祉協議会
福祉課長補佐
あり ま み つ え
有馬 美津枝 さん

福祉課長
わ か ま つ た か ひ ろ
若松 孝弘 さん

活動をしています。

志布志市ボランティアセンターでは、これまで地域のボランティア団体同士をつなげたり、福祉施設等でボランティア活動を希望する団体への活動紹介を、各支所のボランティア・コーディネーターが個別に対応していました。

しかし、この方法では、どうしても社協にボランティア登録している団体や顔見知りの団体など、つなぐ先の選択肢が限られてしまいます。また地域の多様な関係者とつなげる役割を、各支所のボランティア・コーディネーターが個別に行っていることに非効率さも感じていました。

一方で、志布志市内には、市内のボランティア団体や個人の方が登録している志布志市ボランティア連絡協議会が平成25年度に立ち上がっていましたし、市内のNPO法人も市の企画政策課がとりまとめ、NPO等連絡協議会が設置されていました。

こうした地域に根ざしている活動団体やネットワークが多数ある中で、それらが一堂に会し、地域の中で有機的なネットワークや協働をつくっていくために考えたのが「協働笑談会」（以下、「笑談会」）です。

「商談」と「笑談」

「笑談会」を実施するにあたって気を

し ぶ し 鹿児島県・志布志市ボランティアセンター ってこんなところ！

名称
志布志市社会福祉協議会
福祉課地域福祉係・ボランティア係

開設
2006(平成18)年1月
※志布志町、有明町、松山町の3町合併による市制施行にあわせて志布志市社協として開設

職員体制
常勤:4名
※ボランティア担当

主な事業
・地域相互の自発的な助け合い活動の推進
・ボランティア団体の活動推進・ネットワークづくり
・福祉教育推進

基本方針
志布志市と一体的に策定した地域福祉計画・地域福祉活動計画の基本目標の1つの柱である「誰もがふれあえる場とつくるために」を目標としている。

地域の有機的なネットワークをつくる

志布志市は鹿児島県の東部、大隅半島の中でも最も東側に位置し、宮崎県との県境にあります。人口は約3万人、高齢化率は32.8%になります。もともとは志布志町、有明町、松山町の3町に分かれていましたが、平成18年に市制移行をして、志布志市となりました。

志布志市社協も3町の社協の合併により誕生していますので、今は本所と2カ所の支所があります。それぞれに地域福祉係を設置しています。そこに地域福祉係の他業務と兼務となりますが、ボランティア・コーディネーターとして、本所に職員1名と常勤臨時職員1名、支所ごとに常勤臨時職員1名の計4名を配置し、ボランティアセンターとして

つけたことは、活動分野も福祉に限らず、環境や観光分野など、さまざまな分野の活動者に広く呼びかけること、できるだけ社協が事業として主導するのではなく、参加者同士が笑顔で自由に他の団体と話し、ここでの出会いを活動につなげていくための場とすることでした。

そこで、参加団体には事前に自身の活動や求めている活動、提供できる活動・連携などを資料として提出してもらいます。これを一つの冊子としてまとめることは社協のボランティアセンターが行いますが、「笑談会」当日は、いくつかの団体に活動や協働の実践事例を発表してもらった後は、「笑談会」に参加している団体別に簡易なブースを設け、自由に名刺交換や相談ができるプログラムとしました。

この取組みは平成27年度に初めて実施し、市内ボランティア団体や高齢者・子育てサロン団体、NPO法人、学校、行政、福祉施設、漁協や農協、生協、商工会などが参加しました。平成28年度は県内の他市や隣接する宮崎県の団体にも参加いただき、今後のネットワークや活動の広域化にもつながっていくと考えています。

地域の様々な団体がお互いの活動紹介と相手の活動理解をする機会を設定したことで、社協のボランティアセンターを介さなくても、地域課題や活動目標を共有できる相手を探すことができる「商談」の場をつくることができました。

「笑談会」から生まれたさまざまな活動

この「笑談会」を通じて、実際に地域の団体がつながって、新しい活動が生まれています。

例えば、地元の介護付き有料老人ホームやグループホームを営む有限会社は、精神障害のある当事者の会と一緒に施設内の清掃ボランティアをしています。これは、清掃活動そのものを目的とするのではなく、慣れない環境の中で精神に障害のある方が交流するのは難しいと考え、まずは清掃活動を通して



協働笑談会の風景

施設の雰囲気等に慣れてもらい、徐々に施設利用者との交流につなげていくとする試みとなっています。

また、おもちゃや本などの子ども用品の物々交換を支援する「モノモノコウカンプロジェクト」は、これまで若いお母さんたちが中心になって活動をしていました。ここに「笑談会」で出会った地元の更生保護女性会や精神障害当事者の会に手伝ってもらえるようになったことで、運営側のボランティアを必要とする若いお母さん方と、地域で更生保護の活動していた方との世代間交流、障害当事者の方の居場所の役割も、この「モノモノコウカンプロジェクト」が果たすようになりました。

まちづくりを目指して

志布志市の地域福祉計画・地域福祉活動計画の基本理念は「みんな笑がお！志あふれる 結のまち しぶし」です。

そのためには、地域住民が身近にボランティア活動に参加できる環境づくり、学校や地域における活動の場づくりを通して福祉教育の推進、地域の課題、ともに解決していく基盤づくりなどが必要となってきます。

この「笑談会」に参加した団体や活動も、もともと地域の中で社協のボランティアセンターなどが関わっていた団体です。それらが、「笑談会」という場を通して、新たな協働相手と出会い、つながりや活動を作り、居場所づくり、多世代交流の場となっていきました。

ボランティアセンターが目指す活動も、地域に対して「普段から、困ったら社協ボラセンへ！」と親しみやすい関係をつくり、その中でニーズをキャッチし、地域の中でともに支えあう活動をつくっていくことであり、最終的にはまちづくりであると考えています。そして、そのことを実現する一つの取組みが「笑談会」だと考えています。



モノモノコウカンプロジェクトの活動風景

第3回 健全育成研究助成の応募が始まりました。

主催：一般社団法人児童健全育成推進財団 締切：平成29年4月6日(木)必着

詳細については、右記URLをご覧ください。 <http://www.jidoukan.or.jp/>